

# 熊本地域医療センターだより

院長 杉田裕樹

令和4年(2022年)9月発行

熊本地域医療センター電話番号(代表) 096-363-3311 FAX 096-362-0222

〒860-0811 熊本市中央区本荘5丁目16番10号

202210 通算209号  
月号

## 熊本地域医療センター 理念

かかってよかった。  
紹介してよかった。  
働いてよかった。  
そんな病院をめざします。

## contents

わかりやすい診療部紹介～麻酔科～	P 1
わかりやすい診療部紹介～本館4階北病棟～	P 2
退任のご挨拶	P 2
勤怠管理システム導入しました	P 3
退任のご挨拶	P 3
友達の輪～relayトーク 第19弾	P 4

## わかりやすい 診療部紹介

## ～ 麻酔科 ～

出動協力医連絡室長 兼 地域医療連携室長 兼 手術部部長

やなぎ  
柳

ふみはる  
文治



平素より会員の皆様には、大変お世話になっております。今回は、「ひょっとして、わかりにくかった(?)」『手術オープンシステム(以下、当システム)』についてご紹介いたします。

当システムは、2022年8月現在、主に、ひぐち小児科・

小児外科の樋口章浩先生<sup>1)</sup>、みわクリニックの秋月美和先生<sup>2)</sup>、森永上野胃・腸・肛門科の森永博史先生にご利用いただいています。筆者は2007年から勤務していますが、この15年間だけでも、一般外科ばかりでなく、血管外科、整形外科、耳鼻科、眼科、肛門科など様々な専門分野の会員の先生方に当システムをご利用いただいております。以前は、産婦人科の会員の執刀もあったとお聞きしています。私の経験では、通常ならば自院で手術できる術式の症例でも、患者の循環器・呼吸器などの併存疾患に心配があり循環器・呼吸器内科・糖尿病代謝内科の常勤医がいる当院に患者を入院させて、会員ご自身が執刀されて、術後に患者の状態が落ち着いてから自院に転院させるといったケースも複数ございました。

当システムにつきましては、秋月先生ご自身が、「自ら診断した患者さんの癌が術前の画像結果と比較してどのような状態なのか、転帰はどうなってい

るのか」と思い悩んでいるときに知った「自院で診察した患者さんを、外科、麻酔科のバックアップのもと、会員が執刀して手術を行える」システムだにご紹介いただいています<sup>2)</sup>。担当医師にご連絡いただきますと、手術枠の確保や(必要なら)助手の外科医の手配、術前検査日や入院日を決めていただけます<sup>2)</sup>。一方で、樋口先生は、当システムの良い点3つとして、(1)医療の安全性の向上、(2)開業医個人の医療方法やレベルがガラス張りとなり、同時に切磋琢磨の機会が生まれる、(3)開業医が勤務医にちょっとだけ戻れる、をあげられて、さらに、「勤務医から開業医に転じた今でも、私の外来を頼って来てくれた患者さんの手術を自分自身で執刀し治療できる喜びを、日々かみしめています。」と強調しておられます<sup>1)</sup>。

会員の先生方の生の声もご紹介しながら当システムをご説明いたしました。少しはお分かりいただけましたら幸いです。下記にお示ししている参考文献がお手元にない方は、地域医療連携室にご連絡いただくとお届けできると思います。今後とも熊本地域医療センターをよろしく願います。

### 参考文献

- 1) 熊本地域医療センターだより 2015年11月号(通算126号)
- 2) 熊本地域医療センターだより 2021年12月号(通算199号)

## わかりやすい 部門紹介

### ～本館4階北病棟～

本館4階北病棟師長 おおうち 大内 かずみ 和美



本館4階病棟（小児病棟）では、「24時間の小児救急医療を支える」ことを使命としています。入院患者の殆どがかりつけ医からのご紹介、ならびに休日・夜間急患センターを受診する小児です。

現在、小児病棟は少子高齢化の波により、一般感染症や休日・夜間急患センターの受診患者数の減少に伴い、入院患者数も減少傾向にあります。しかし、外来と協働しながら急性気管支喘息、肺炎、川崎病、RSウイルス感染症などの急性疾患の小児患者の対応を行っています。外来との協働においては、24時間365日、休日・夜間急患センターを受診する小児に即応できるよう感染対応ができるスタッフを育成しています。また、毎週水曜日の予防接種、小児アレルギー専門医による食物アレルギーの相談・負荷試験、喘息、アトピー性皮膚炎等のアレルギー疾患等の対応に、小児アレルギーエデュケーターの資格をもつ看護師が、患者および家族に対して適切なセルフケアについ

て教育・指導を行っています。特に、新型コロナウイルス感染症流行により、外来と協働するスタッフには、協働への感謝とねぎらいの言葉を意図的にかけるようにしています。

今年度、病棟目標「院内の動向に応じ協働・連携を発揮できる部署になる」を掲げました。今、求められていることは、入院患者の動向に応じながら、小児看護のスキルアップ・維持を図ることはもちろん、小児だけではなく成人にも対応できる「ポリバレンタナス」を育成しています。急な入院を余儀なくされ、不安を抱えて入院する患者、家族が安心して入院生活が送れるように、病院理念である「かかってよかった」と思ってもらえる病棟を目指していきたいと思います。



## 退任のご挨拶

消化器内科部長 たむら 田村 ふみお 文雄



暑さ厳しい折、また突然の大雨など予測出来ない天候に皆様大変な思いをされているものと存じます。さて私ごとで恐縮ですが、2008年から熊本地域医療センター消化器内科に勤務しておりましたが、2022年8月末で退職することとなりました。

在職中は忙しさに感けて患者様の十分なフォローやお返事が出来ずに、会員の皆さまには大変ご無礼をしたものと反省しております。また、2011年の「東日本大震災」、2016年に「熊本地震」

や2020年には「新型コロナウイルスのパンデミック」を経験し、災害時の医療の大変さや困難さを実感しました。このような災害に対する準備や危機管理の重要性を認識し、大変勉強になりました。

実臨床では「消化器がん」を中心に診療をさせて頂きましたが、新規抗がん剤や免疫チェックポイント阻害剤など今までと異なる薬剤や遺伝子検査も加わり、医療もやはり日進月歩だと痛感しております。これからも変化する医療や病気に対応していかなければと心新たにしております。

10月からは熊本市西区の方で開業し、あらためて地域医療に貢献する所存ですので、今後もよろしくお願い致します。お世話になりました。

## 勤怠管理システム導入しました

総務課主任 ほんだ りゅういち  
本田 龍一



2024年に始まる医師の働き方改革を前に、令和4年9月より新たに勤怠管理システムを導入しました。当システムは院内で使用しているSSIの電子カルテと連

動し、出退勤を始め有休や時間外申請等を一元管理しています。

労働時間や雇用条件が異なる多職種が多い病院において、全職員の勤怠情報を一つのシステムで管理することは容易ではなく、5月より多くの打ち合わせを重ね、当院の働き方に沿った仕様に随時カスタマイズを行いました。

これまで紙運用だった出退勤のタイムカードや有休及び時間外労働等の申請は全て電子化し、承認権限を用いて部署単位での管理を可能としました。全職員に

配布したICカードは、院内10数カ所に設置した打刻機のどこでも打刻ができ、オンコール等で呼び出された際にすぐに現場にかけつけることができます。また打刻情報を元に職員の在院状況の確認も可能です。自分の勤務予定や有休使用数もPC上にて常に把握できるため、今後はより計画的な有休取得にも期待しています。

導入後ひと月が経ち、未だ慣れない部分もありますが、各部署に協力をいただきながら運用を進めております。

働き方改革という定められた労働時間の枠の中でいかに効率よく仕事ができるか、取り組むべき課題は多くありますが、それぞれが意識を持って取り組むことが大切です。熊本地域医療センターをご利用いただく方々のためにも、まずは職員一人一人が働きやすいと思える環境づくりに向け今後も取り組んでまいります。

## 退任のご挨拶

小児科 ふじやま なつみ  
藤山 菜摘



2022年4月から5か月間、勤務させて頂きました、小児科の藤山菜摘と申します。短期間ではございましたが、この度退任し、9月から熊本大学病院で勤務することとなりました。

当院は、小児科の先生方はもちろん、看護師さんを始めとしたスタッフの方が皆親切で、スムーズに連携が取れているのが印象

的でした。そのような皆様方のお陰で、当院のシステムやコロナ禍という特殊な環境下での救急医療に不慣れな中でも、熊本県の救急医療に携わることができたことを光栄に思います。また救急医療以外にも、アレルギーといった専門分野やこれまで経験したことのない症例など、短期間であるにも関わらず多くの経験を積ませていただきました。

当院で学んだことを生かして、今後も精進していきたいと思っております。この場をお借りして、お礼申し上げます。誠に有難うございました。

# 「友達の輪～Relay トーク 第19弾」

いであ 平成眼科クリニック 出田 隆一



いであ平成眼科クリニックを南区で開業しております出田隆一です。唐木クリニックの唐木先生からご紹介されました。唐木先生とはロードバイクで一緒するなど公私でお世話になっています。私は眼科の無床クリニックを開業しており、白内障などの眼科手術を専門に行なっていますが特に網膜硝子体疾患を多く手がけております。

開業は2019年8月であり3年経ちましたが、以前は中央区の出田眼科病院院長を10年間務めており、その当時から地域医療センターには患者さんのことで何かと大変お世話になっております。具体的には眼科手術前後の全身疾患の管理や稀には患者の急変に対する救急対応などで助けて頂きました。どのような場合にも迅速にご対応頂きマイナー科の医療機関として地域医療センターは大変心強い存在です。医師会による設立運営であることも一開業医としては他の大病院と比べて敷居が低い感じがして親近感があります。また、私が学生のころから市内の基幹病院として大きな存在感があり、個人的にも祖父の終末期をお世話になりました。私は日頃自転車通勤をしており、昨年のことですが帰宅途中で転倒して顔面に深い怪我を負いました。そのまま帰宅できな

いような状況で救急を受診したところ平日の夜にご年配の先生が大変丁寧に手当てをして下さりました。夜間診療のありがたさを感じるとともに、これほど大先輩の先生が夜間当直をされていることに申し訳ない思いでした。やや気が動転しておりお名前を確かめることができず失礼しましたが本当にありがとうございました。夜間休日を通して熊本市民の健康を守る地域医療センターの存在意義は今後も揺るぐことはありません。日頃病院運営に関わっておられる先生方、職員の皆様には深く感謝申し上げます。

ところで冒頭のロードバイクですが、熊本市は金峰山という素晴らしい山があり自転車に乗ると私の自宅からは10分で山道に入ります。金峰山は複数の山が連なる外輪山からなり自転車で走るには絶好のコースです。阿蘇山ほど遠くなく適度な標高で車の往来も少なく様々なルートで走ることができます。河内方面のみかん畑の合間を抜ける道では遠くに雲仙・普賢岳を望み、眼下には有明海が広がります。自転車を停めて景色を眺めながらひと休みする場所もたくさんあり、最近山の上でコーヒーを淹れながら朝食をとることが楽しみになってしまい肝心のライドは疎かになっている今日この頃です。のんびりロードバイクを楽しみたい方はぜひお声掛けください。

次回は私と同時期にご近所で先に開業しておられた、しおや内科・内視鏡クリニックの塩屋公孝先生にお願いします。

## 熊本地域医療センター勉強会のお知らせ

日時／2022年10月24日(月) 19:00～20:00

形式／ハイブリッド方式 オンライン参加 or 会場参加  
オンライン参加：ZOOM 会場参加：2階多目的ルーム

申し込み方法／[kumamotochiiki@gmail.com](mailto:kumamotochiiki@gmail.com) (※1) までメールにて「所属医療機関名」および「氏名」を記載し、お送りください。(後日、詳細な参加方法についてご案内いたします。)

※会場参加を希望される方は、事前にお申し込みください。  
人数制限によりご案内できない場合がございます。  
※予定が変更になる場合がありますのでご注意ください。

(※1) 申し込みアドレス



### ①症例報告

『肋軟骨損傷の診断にMRIが有用であった一例』

放射線科 松川 哲也 医師

### ②特別講義

『肺癌を見落とさない胸部X線の読み方』  
CC11：予防と保健

呼吸器内科 柏原 光介 医師

## 熊本地域医療センター

■医師へ直接紹介される方はこちら

☎096-363-3311 (代表)

■何科に紹介するか迷っている場合はこちら

※ベテラン看護師が対応いたします！

(平日9:00～17:00) ☎096-372-0600

■画像診断・内視鏡などの検査予約はこちら(連携室)

☎096-366-1323

編集後記

Y 今月号のRelayトークは、いであ平成眼科の出田隆一先生に「大変心強い存在」と書いていただきました。当院にない診療科の会員の先生方からのご理解もいただけて新病院の建替えに弾みがつきます。ありがとうございました。

K 食欲の秋。果実の種類も豊富で目移りしますが、私は、やっぱり秋刀魚ですね。今年は、小ぶりですがさらに高値。秋刀魚の大群が、夢に出てきそうです。お腹いっぱい、食べたいなあと思う今日この頃です。

H 最近フットサルを始めました。週1ペースで参加しているのですが、翌日から歩くことが辛いほどの筋肉痛に襲われます。もう高校時代みたく若くないと実感し、少し悲しくなりました。